

**【2019 年度以降入学者用】**

**I. 教育課程および単位制度**

**1. 教育課程**

理工学部の授業科目は、**教養系科目、専門教育科目、公開選択科目（2016 年度以降入学者のみ）**からなり、これらの科目を 4 ヶ年に配当して授業を実施しています。卒業して学士の学位を得るためには所定の授業科目の単位を修得しなければなりません。そのために必要な単位数および内容に関する規定は極めて厳格なものです。この「履修の手引き」を熟読し、誤りのないよう十分注意してください。また、教育職員・図書館司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員等の資格取得志望者のために、教職・資格に関する科目が設置されています。

**2. 単位制度**

本学における教育課程は、すべてに単位制度が採用されています。単位制度とは、所定の授業科目の履修を終了し（所定の期間を受け終わること）、平素の学習・出席状況および試験・レポート等による成績評価の結果、合格することによって、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度です。また、特定条件を満たすことにより単位が認定される科目もあります。

各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を、自習も含めて 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとします。

- (1) 講義及び演習については、15～30 時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって 1 単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30～45 時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって 1 単位とする。

**3. 卒業所要単位および修業・在学年限**

理工学部を卒業し学士（理工学）の学位を得るためには、4 年以上（最高 8 年）在学し、各学科の定める単位を修得しなければなりません。各学科の定める要件については、後述の各学科の案内を確認してください。

**卒業所要単位** ※詳細は必ず各学科の案内で確認してください。

科目系列		必要単位数	
教養系科目	英語科目	8 単位以上 (創生は選択語学含め 18 単位)	計 32 単位以上 (創生は計 42 単位以上)
	教養科目	12 単位以上	
	理系教養科目	12 単位以上	
専門教育科目	自学科専門科目	62 単位以上	計 80 単位以上 (創生は除く)
	他学科専門科目		
公開選択科目		計 12 単位以下	
自由科目(創生科学科のみ)		卒業所要単位には含まれません	
教職・各資格関係科目		卒業所要単位には含まれません	
		計 124 単位以上	

## 2-1. 単位制度のあらましと履修登録の上限

履修は、講義全てに出席し、かつ十分な予習復習ができるように計画することが大切です。進級条件・卒業要件を満たすことを最優先し、以下の制限内で一年間の履修単位を決めてください。

- (1)春学期秋学期各々について30単位を超えて履修登録することはできません。通年科目については、春学期・秋学期半分ずつに分けて、履修上限単位を計算するようにしてください。
- (2)年間の合計が49単位を超えて履修登録することはできません。
- (3)2年次以降は上記を基準とし、前年度までの累積GPAが3.0以上の学生は年間60単位まで履修できます。
- (4) インターンシップ、科学技術コミュニケーション演習(SAプログラム)、卒業要件とされない入門数学、入門物理学、教職科目や文系資格(図書館司書等)科目は、履修制限の対象外となります。

## 2-2. 進級条件・卒業要件、履修上の留意点

進級・卒業するためには、以下の要件を1単位も漏らすことなく、すべて満たさなければなりません。また、該当学年の進級条件だけを満たすのではなく、卒業にむけて計画的な履修計画を立てることが大事です。

(機械工学専修:2019年度以降入学者用)

(航空操縦学専修:2019年度以降入学者用)

		教養系科目			専門科目		公開選択科目	合計
		英語科目	教養科目 (人文・社会・ 自然科学系 スポーツ健康科学系 選択語学系 リテラシー系)	理系教養科目 (数学系・理科系)	自学科 専門科目	他学科 専門科目		
1 年 次	2年への 進級条件							30 単位 以上
	履修上の 留意点	・少なくとも 36 単位以上の修得を目指すこと。 ・配当年次の必修科目は必ず履修登録すること。						
2 年 次	3年への 進級条件							64 単位 以上
	履修上の 留意点	・1 年次修得単位と 2 年次修得単位の合計として、少なくとも 72 単位以上を目指すこと。 ・配当年次の必修科目は必ず履修登録すること。						
3 年 次	4年への 進級条件	8 単位						90 単位 以上
	履修上の 留意点	・1-2 年次修得単位と 3 年次修得単位の合計として、少なくとも 108 単位以上を目指すこと。 ・配当年次の必修科目は必ず履修登録すること。						
4 年 次	卒業要件	8 単位	12 単位 以上	12 単位以上 (機械工学専修: 必修 2 単位を含む) (航空操縦学専修: 必修 4 単位を含む)	62 単位以上 (機械工学専修: 必修 42 単位を含む) (航空操縦学専修: 必修 46 単位、選択必修 16 単位以上を含む))			124 単位 以上
		計 32 単位以上			計 80 単位以上		計 12 単位 以下	

※ 卒業要件について:教養系科目の合計 32 単位と、専門科目の合計 80 単位の修得だけでは、合算が卒業要件の 124 単位を満たすことができません。したがって、さらに 12 単位分を教養系科目・専門科目・公開選択科目から修得してください。

※ 進級基準を満たさなかったために留級となった学生(前年度休学したことにより、留級したものは除く)は、本学科が主催する1学年上の選択科目、選択必修科目(航空操縦学専修の場合のみ)を履修することができます(必修科目、機械工学ゼミナール I・II、卒業研究は履修できません)。但し、この履修単位は進級に必要な単位として認められないので注意してください。

※ GPA 制度の活用により、ポイントの少ない学生には、進級条件にかかわらず、本人並びに保証人に対して履修指導を行います。

## 【2019 年度以降入学者用】

### 2-1. 単位制度のあらましと履修登録の上限

1 単位の授業科目の内容は45時間の学修を必要とする内容をもって構成されています（本冊子3ページ参照）。例えば、講義科目では毎週100分（2時間として計算）の授業を行うほかに、その倍の時間の予習復習をおこなうことが必要になっています。こうした単位制度の趣旨から、過密な履修を避けるために各学期及び学年で履修できる単位数の上限が設定されています。

単位制度の意味をきちんと理解した上で、以下に述べる進級条件・卒業要件を満たすよう履修計画をたてて実行してください。

- (1) 春学期・秋学期各々について30単位を超えて履修することはできません。
- (2) 年間の合計が49単位を超えて履修することはできません。
- (3) 2年次以降は上記を基準とし、前年度までの累積GPAが3.0以上の学生は年間60単位まで履修できます。
- (4) インターンシップ、科学技術コミュニケーション演習(SAプログラム)、卒業要件とならない入門数学、入門物理学、教職科目や文系資格(図書館司書等)科目は、履修制限の対象外となります。

### 2-2. 進級条件・卒業要件、履修上の留意点

- (1) 進級条件および卒業要件が次ページにまとめてあります。

進級・卒業するためには、各年次の必要単位数を満たすのみならず、科目区分ごとの要件も満たさなければなりません。これらの条件や要件のうちの一つでも欠けると、進級や卒業が遅れることとなります。卒業に向けて綿密な履修計画を立てて実行してください。

- (2) 下記の科目は必修ではありませんが、本学科で学習を進める上で重要な基礎をなします。

必ず履修してください。

- ・1年生の自然科学の方法(電気)は、高等学校から大学への学習のつながりを滑らかにするために設置されている科目です。
- ・2年生の数学科目(応用数学、応用解析、応用線形代数、複素関数論(電気)、基礎数値解析、確率統計)、ならびに情報系2科目(プログラミング言語C、プログラミング言語Fortran(電気))は、専門科目を理解し、卒業研究を行うために必要不可欠な内容を多く含みます。
- ・科学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、専門科目の実験や卒業研究の実験において必要とされるセンスを身に付けるために重要な科目です。

- (3) 本学科では、卒業後の広範な進路に対応するため5つのコースを設定しています。5つのコースの概要と推奨する科目が「2-4. 各コースの案内と履修ガイド」にまとめてあります。このコース分類はあくまでも一つの目安であり、複数のコースにまたがった履修も可能です。また、各履修モデルはあくまでも一例であり、そのコースのゼミ(研究室)に所属するための条件ではありません。

- (4) 本学科卒業後に得られる取得資格および受験資格が「4. 資格の案内」にまとめてあります。将来のキャリア形成との関係をよく考えて、履修計画に組み込んでください。

- (5) 不明な点等がある場合は、クラス担任をはじめとする専任教員(電気電子工学科に所属する教授、准教授、専任講師)に遠慮なく質問してください。

進級条件・卒業要件および履修上の留意点（2019年度以降入学者用）

	教養系科目			専門科目		公開選択科目	合計
	英語科目	教養科目	理系 教養科目	自学科 専門科目	他学科 専門科目	※2016以降 入学者のみ	
第1学年から 第2学年に進級			6単位 以上				30単位 以上
第2学年から 第3学年に進級				必修 20単位以上			64単位 以上
第3学年から 第4学年に進級	8単位			必修 29単位以上 選択必修 4単位以上			100単位 以上
卒業要件	8単位	12単位 以上	12単位 以上 (必修6単 位を含む)	62単位以上 (必修38単位・ 選択必修 4単位以上 を含む)			124単位 以上
	計32単位以上			計80単位以上		計12単位 以下	

※ 選択必修科目（次ページ専門科目一覧参照）は必修科目に準じた重要科目であり、5科目中2科目(4単位)を必修とします。

※ 進級基準を満たさなかったために留級となった学生（前年度休学したことにより、留級したものは除く）は、本学科が主催する1学年上の選択必修科目、選択科目を履修することができます（必修科目は履修できません）。但し、この履修単位は進級に必要な単位として認められないので注意してください。

※ プログラミング言語をより詳しく学習したい学生には、プログラミング言語C++、プログラミング言語JAVAの履修を薦めます。ただし、これらの2科目は他学科主催科目であり、希望者が多い場合には履修が制限されることがあります。

※ 卒業要件について：教養系科目の合計32単位と、専門科目の合計80単位の修得だけでは、合計が124単位以上という卒業要件を満たすことができません。さらに12単位以上を専門科目（教養系科目・公開選択科目（2016年度以降入学者のみ）でも可）から修得してください。

※ GPAが低く成績不良と認められる学生については、成績および履修状況を保証人に通知し、学生本人に対して履修指導を行います。

電気

## 【2019 年度以降入学者用】

### 2-1. 単位制度のあらましと履修登録の上限

履修は、講義全てに出席し、かつ十分な予習復習ができるように計画することが大切です。進級条件・卒業要件を満たすことを最優先し、以下の制限内で一年間の履修単位を決めてください。

- (1) 春学期・秋学期の各々について、30単位を超えて履修登録することはできません。通年科目については、春学期・秋学期半分ずつに分けて、履修上限単位を計算するようにしてください。
- (2) 年間の合計が49単位を超えて履修登録することはできません。
- (3) 2年次以降の履修登録は上記を基準とし、前年度までの累積GPAが3.0以上の学生は年間60単位まで履修できます。
- (4) インターンシップ、科学技術コミュニケーション演習 (SAプログラム)、卒業要件とならない入門数学、入門物理学、教職科目や文系資格 (図書館司書等) 科目は、履修制限の対象外となります。

## 2-2. 進級条件・卒業要件、履修上の留意点（2019年度以降入学者用）

進級・卒業するためには、以下の要件を1単位も漏らすことなく、すべて満たさなければなりません。特に、「履修上の留意点」に記された事項を満たさないと、4年間で卒業することが非常に難しくなります。また、該当学年の進級要件だけを満たすのではなく、卒業にむけての計画的な履修計画を立てることが大事です。

		教養系科目			専門科目		公開選択科目	合計
		英語科目	教養科目 (人文・社会・自然科学系 スポーツ健康科学系 選択語学系 リテラシー系)	理系 教養科目 (数学系・理科系)	自学科 専門科目	他学科 専門科目	※2016年度 以降入学者 のみ	
1 年次	2年への 進級条件			必修科目が 2単位以上、かつ 必修と選択必修科 目の合計が 4単位以上	必修科目と 選択必修科目の合 計が12単位以上			
	履修上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>理系教養科目は必修および選択必修の9科目全ての修得を目指すこと。</li> <li>少なくとも36単位以上の修得を目指すこと。</li> <li>配当年次の必修科目は必ず履修登録すること。</li> </ul>						
2 年次	3年への 進級条件			必修科目が 4単位以上、かつ 必修と選択必修科 目の合計が 10単位以上	必修科目が 22単位以上、かつ 選択必修科目が 18単位以上、かつ 選択科目を含めて 合計42単位以上			
	履修上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次修得単位と2年次修得単位の合計として、少なくとも72単位以上を目指すこと。</li> <li>配当年次の必修科目は必ず履修登録すること。</li> </ul>						
3 年次	4年への 進級条件	8単 位						90 単位 以上
	履修上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>1-2年次修得単位と3年次修得単位の合計として、少なくとも108単位以上を目指すこと。</li> <li>配当年次の必修科目は必ず履修登録すること。</li> </ul>						
4 年次	卒業要件	8 単位	12単位 以上	12単位以上 (必修科目6単位、 かつ選択必修科目 4単位以上を含む)	62単位以上 (必修科目44単位、 かつ選択必修科目 18単位以上を含む)			124 単位 以上
		32単位以上			80単位以上		12単位 以下	

応  
情

※ 専門科目・自学科専門科目のうち、合計44単位の**必修科目**を以下の表に示す。

学年	自学科専門科目	
1年	プログラミング言語C(情報) プログラミング言語C演習(情報) プログラミング言語C++ 確率統計(情報)	情報ネットワーク概論 集合と命題論理 離散数学(情報) 情報工学入門 論理回路
2年	プログラミング言語 JAVA	計算機アーキテクチャ 計算機アーキテクチャ演習 データ構造とアルゴリズム 情報理論 情報工学実験 I
3年	PBL	情報工学実験 II 情報工学実験 III 情報工学ゼミナール
4年		卒業研究 卒業研究ゼミナール
科目数	計 6 科目	計 15 科目

### 注意

1年次から2年次、および、2年次から3年次の進級にあたっては、**必修科目**に加えて、理系教養科目・自学科専門科目のうち、以下の表に示す**選択必修科目**について、指定された単位数以上を修得していることが進級の条件となっている。

理系教養科目	自学科専門科目		
物理学基礎 I	自然科学の方法(情報)	基礎電気回路(情報)	インターネットプロトコル
物理学基礎II		応用数学 (情報)	電磁気学基礎
科学実験 I		形式言語とオートマトン	信号理論
科学実験 II		分散システム	セキュリティ概論
科学実験 III		センシング工学	電子回路
		アセンブリ言語	アセンブリ言語演習
		ソフトウェア設計技法	ユビキタス計算
		人間工学(情報)	応用解析 (情報)
		画像診断装置概論	ヒューマンインタフェース
		組み合わせアルゴリズム	生体信号計測処理

※ 卒業要件について、教養系科目の合計32単位と、専門科目の合計80単位の修得だけでは、合算が卒業要件の124単位を満たすことができないので、さらに12単位以上を教養系科目・専門科目・公開選択科目（2016年度以降入学者のみ）から修得すること。

※ 法政大学ではGPA制度が導入され、進級条件や科目履修の制限はこのGPA制度を活用して実施されます。ポイントの少ない学生には、進級留級にかかわらず、本人並びに保証人に対して履修指導を行います。具体的には、1年次のプレゼミにおける履修指導に始まり、GPAのポイントが低い学生の個別相談の機会をもち、就学への動機づけを促します。

※ 進級に関する留意点は、随時、掲示されますので注意してください。

## 【2019年度以降入学者用】

ここからは2019年度以降入学者を対象に、本冊子を読み進める上での重要事項を説明します。以下の説明を熟読し、履修手続を締切日までに各自が確実に行ってください。

- (1) **2-1.** 節「単位制度のあらましと履修登録の上限」では、大学での単位制度の概要と、各学年でバランスよく学習を進めるためのガイドラインが示されています。
- (2) **2-2.** 節「進級条件・卒業要件、履修上の留意点」では、進級条件と卒業要件について説明します。特に「履修上の留意点」に記された事項を満たさないと、4年間で卒業することが厳しくなることに留意してください。
- (3) **2-4.** 節「学習分野の案内と履修ガイド」では、4つの分野の概要と推奨する科目群について説明します。分野は卒業研究の分野に関連づけたおおまかな分類であり、実際には自己の学修・研究意識にそって、複数の分野にまたがって履修すべきものです。ただし互いに関係の薄い科目をつまみ食いのように履修することは、修得知識の積み上げができない恐れがあり、避けるべきです。
- (4) 教養系科目のうち、数学系4科目（線形代数学及び演習Ⅰ、同Ⅱ、微分積分学及び演習Ⅰ、同Ⅱ）、理科系の実験3科目（特に物理学実験）はいずれも、経営システム工学科における専門科目を理解し、卒業研究を仕上げるために必要不可欠な内容を多く含みます。また、1・2年次の必修科目の内容にも深く関連していますので、入学初年度に必ず履修してください。
- (5) **4.** 章「資格の案内」も読んでおいてください。
- (6) 不明な点などがある場合は、クラス担任をはじめとして、経営システム工学科に所属する専任教員に遠慮なく質問してください。

### 2-1. 単位制度のあらましと履修登録の上限

#### 単位制度のあらまし

履修は、講義すべてに出席し、かつ十分な予習復習ができるように計画することが大切です。進級条件・卒業要件を満たすことを最優先し、以下の制限内で一年間の履修単位を決めてください。

#### 履修単位数の上限

- (1) 春学期・秋学期それぞれ30単位を超えて履修することはできません。通年科目は、春学期・秋学期半分ずつに分けた単位数に換算します。
- (2) 年間の合計49単位を超えて履修することはできません。従って、2年次までに少なくとも41単位修得しないと、3年次終了までに90単位を修得できません。
- (3) 前年度までの累積GPAが3.0以上の学生は、2年次以降は年間60単位まで履修できます。
- (4) インターンシップ、科学技術コミュニケーション演習(SAプログラム)、卒業要件とならない入門数学、入門物理学、教職科目や文系資格(図書館司書等)科目は、履修制限の対象外です。



## 2-2. 進級条件・卒業要件、履修上の留意点

進級・卒業するためには、以下の要件をすべて満たさなければなりません。また、該当学年の進級条件を満たすだけでなく、卒業にむけて計画的に履修計画を立てることが大切です。

### 進級条件・卒業要件、履修上の留意点（2019年度以降入学者用）

		教養系科目			専門科目		公開選択科目	合計
		英語科目	教養科目 (人文・社会・ 自然科学系 スポーツ健康科学系 選択語学系 リテラシー系)	理系 教養科目 (数学系・ 理科系)	自学科 専門科目	他学科 専門科目	※2016年度以降 入学者のみ	
1 年 次	2年への 進級条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>下記のすべての条件を満たすこと。                             <ol style="list-style-type: none"> <li>線形代数学及び演習Ⅰ、微分積分学及び演習Ⅰの2科目のうち、1科目以上に合格していること。</li> <li>プログラミング言語C（経営）、プログラミング言語C演習（経営）、確率統計（経営）、計算機実習A、計算機実習B、基礎数学の6科目のうち、3科目以上に合格していること。</li> </ol> </li> </ul>						
	履修上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>少なくとも36単位以上の修得を目指すこと。</li> <li>配当年次の必修科目は必ず履修登録し、単位の修得を目指すこと。</li> </ul>						
2 年 次	3年への 進級条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>下記のすべての条件を満たすこと。                             <ol style="list-style-type: none"> <li>線形代数学及び演習Ⅰ、微分積分学及び演習Ⅰのすべてに合格していること。</li> <li>プログラミング言語C（経営）、プログラミング言語C演習（経営）、確率統計（経営）、計算機実習A、計算機実習B、基礎数学の6科目のうち、5科目以上に合格していること。</li> <li>数理統計学、オペレーションズリサーチA、オペレーションズリサーチB、経営工学計算演習A、経営工学計算演習Bの5科目のうち、2科目以上に合格していること。</li> </ol> </li> </ul>						
	履修上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次修得単位と2年次修得単位の合計として、少なくとも72単位以上を目指すこと。</li> <li>配当年次の必修科目は必ず履修登録し、単位の修得を目指すこと。</li> </ul>						
3 年 次	4年への 進級条件	8単位						90単位 以上
	履修上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記の単位数に加え、下記のすべての条件を満たすこと。                             <ol style="list-style-type: none"> <li>プログラミング言語C（経営）、プログラミング言語C演習（経営）、確率統計（経営）、計算機実習A、計算機実習B、基礎数学のすべてに合格していること。</li> <li>数理統計学、オペレーションズリサーチA、オペレーションズリサーチB、経営工学計算演習A、経営工学計算演習Bの5科目のうち、4科目以上に合格していること。</li> <li>経営工学基礎演習、PBLの2科目のうち、1科目以上に合格していること。</li> </ol> </li> <li>1-2年次修得単位と3年次修得単位の合計として、少なくとも108単位以上を目指すこと。</li> <li>配当年次の必修科目は必ず履修登録し、単位の修得を目指すこと。</li> </ul>						
4 年 次	卒業要件	8単位	12単位 以上	12単位以上 (必修4単位 を含む)	62単位以上 (必修35単位 を含み、選択必 修科目8単位以上 を含む)			124 単位 以上
		計 32単位以上			計 80単位以上		計 12単位以下	

※ 卒業要件について：教養系科目の合計32単位と、専門科目の合計80単位の修得だけでは、合算が卒業要件の124単位を満たすことができません。したがって、さらに12単位分を教養系科目・専門科目・公開選択科目から修得してください。

※ GPAの低い学生には、本人および保証人に対して履修指導を行うことがあります。

## 【2019年度以降入学者用】

### 2-1. 単位制度のあらましと履修登録の上限

創生科学科の教育は、科目履修体系の基盤を物理学と数理学に置きますが、知能・情報系、人文・社会系科目も含めた幅広い分野の科目から成り立っています。また、実践・実習を重視します。

「教養系科目」や「語学科目」を通じて、広範な科学・技術の社会的・歴史的意義を理解するための知識やコミュニケーション能力を修得します。語学科目は3年次まで必修、あるいは選択必修となります。

創生科学科では、

- ① 極大の世界である「自然」
- ② 極小の世界である「物質」
- ③ 社会的世界である「人間」
- ④ 人間の情報処理過程の世界である「知能」

を4つの学習フィールドとしています。

一部の例外を除いて、ほとんどの科目は、半期2単位です。

科目の履修においては、以下の留意点に注意してください。

- (1) 創生科学科の「フィールド」は、他の学科の「コース」とは異なります。「コース」は一本道ですが、「フィールド」はひろがりを持つ領域であり、そこには分岐・合流する複雑な経路、回り道でさえ敷くことができます。創生科学科が養成する人材は、有機的つながりを理解する能力、多様な領域へ適用できる能力を持つことが重要です。皆さんには、専門性と広範性をどちらも大切にしたいと考えています。そのために4フィールドを3群(①～③)に分けたグループ選択必修科目を用意してあります。①群と②群からはそれぞれ2科目以上、③群からは1科目以上を全員履修してください。その上で1つのフィールドに重点を置いた科目を選択・学習し、3年次以降にゼミ(研究室)に所属していくこととなります。
- (2) 創生科学科の専門教育科目は「講義科目」「実験実習科目」「卒業研究科目」で構成されています。「卒業研究科目」はすべて必修科目です。「実験実習科目」は、必修科目と選択必修科目からなっています。「講義科目」は必修科目、グループ選択必修科目、選択科目からなっています。科目の名称と区分については、創生科学科の「専門教育科目一覧」を参照してください。
- (3) 創生科学科では、3年次には、「自然」「物質」「人間」「知能」から一人1つのフィールドを選択して各フィールドの履修モデルに沿って推奨科目などの履修をすることになります。皆さんは、履修モデルに沿った科目の履修・修得をして、進級条件・卒業要件を満たす履修計画を立ててください。
- (4) フィールドごとに、履修モデルが少しずつ異なり、学年が進むごとに違いが顕著になり

ます。特に2年次の科目では知能フィールドがそれ以外の3つのフィールドと大きく異なります。2年次から2つ以上のフィールド選択を想定した科目の履修をし、多くのフィールドの学習を通して、3年次から自分が進みたいフィールドを1つ選ぶこととなります。

ゼミや卒業研究も重要な決定になりますのでよく考えて決めてください。創生科学科の学生諸君には、専門性と同時にフィールドを超えた広汎性が求められており、できるだけ広い範囲の科目履修・修得を心がけてください。

- (5) 進級、卒業は、皆さんが科目を履修登録し、修得した単位数によって決定されます。「進級条件」「卒業要件」「履修上の留意点」に記された事項をよく理解するよう努めてください。
- (6) 不明な点等がある場合は、アドバイザーやクラス担任等の専任教員（創生科学科に所属する教授、准教授）に遠慮なく質問してください。

履修は、講義すべてに出席し、かつ十分な予習・復習ができるように計画することが大切です。進級条件・卒業要件を満たすことを最優先し、以下の制限内で一年間の履修単位を決めてください。

- (1) 春学期・秋学期各々について、30単位を超えて履修登録することはできません。通年科目については、春学期・秋学期半分ずつに分けて、履修上限単位を計算するようにしてください。
- (2) 年間の合計が49単位を超えて履修登録することはできません。
- (3) 2年次以降は上記を基準として、前年度までの累積GPAが3.0以上の学生は年間60単位まで履修できます。
- (4) インターンシップ、科学技術コミュニケーション演習（SAプログラム）、卒業要件とならない入門数学、入門物理学、教職科目や文系資格（図書館司書等）科目、自由科目は、履修制限の対象外となります。

## 2-2. 進級条件・卒業要件、履修上の留意点

進級・卒業するためには、1 単位も漏らすことなく、進級条件・卒業要件をすべて満たさなければなりません。また、当該学年の進級条件だけを満たすのではなく、卒業に向けて計画的な履修計画を立てることが大切です。進級条件・卒業要件をまとめた表を示します。

※ フィールドを超えた広汎性が重要であることにも留意して、できるだけ広い範囲の科目履修・修得に努めてください。

※ GPA制度の活用により、GPAの低い学生には、進級要件にかかわらず、本人ならびに保証人に対して履修指導を行うことがあります。

進級条件・卒業要件および履修上の留意点（2019年度以降入学者用）

		教養系科目			専門科目				公開選択科目	合計
		語学系 (英語科目及 び選択語学系 教養科目)	教養 (選択語 学系を除 く)	理系 教養	自学科専門科目			他学科 専門 科目		
					講義 科目	実験 実習 科目	卒業 研究 科目			
1 年 次	2年への 進級条件	必修 および 選択必修 4単位 以上		必修 4単位 以上	必修 4単位 以上					20 単位 以上
	履修上の 留意点	・必修科目・選択必修科目は必ず履修登録すること ・創生科学基礎実験ならびに創生科学基礎演習については、3年への進級条件や卒業要件に注意して履修すること								
2 年 次	3年への 進級条件	必修 および 選択必修 5単位 以上		必修 8単位 以上	必修 6単位 以上	選択必修 4 単 位以上 (創生科学基 礎実験 2 単位 以上、創生科 学基礎演習 2 単位以上含 む)				50 単位 以上
	履修上の 留意点	・必修科目・選択必修科目は必ず履修登録すること ・創生科学基礎実験ならびに創生科学基礎演習については、1年次配当を含め3科目ずつあるうちから2年次終了までに各1科目以上を修得すること								
3 年 次	4年への 進級条件	必修 および 選択必修 12単位 以上		必修 10 単位 以上	必修 および 選択必修 14 単位 以上	必修 および 選択必修 8単位 以上	必修 2 単位			90 単位 以上
	履修上の 留意点	・必修科目・選択必修科目は必ず履修登録すること ・グループ選択必修科目については、①・②群から各2科目以上、③群から1科目以上を4年次終了までに修得すること ・創生科学基礎実験または創生科学基礎演習のいずれかについては、I～IIIすべてを4年次終了までに修得すること								
4 年 次	卒業要件	18 単位 以上 (必修 8 単 位、選択必 修 10 単位 以上含む)	12 単位 以上 (必修 12 単位 含む)	12 単位 以上 (必修 12 単位 含む)	26 単位以上 (必修 16 単 位、グルー プ選択必修 科目の①・ ②群からそ れぞれ 4 単 位以上と③ 群から 2 単 位以上の計 10 単位以上 含む)	14 単位以上 (必修 6 単位、 選択必修 8 単 位以上含む ただし選択必 修には創生科 学基礎実験 6 単位または創 生科学基礎演 習 6 単位を含 むこと)	7 単位 以上  (必修 7 単位 含む)			124 単位 以上
		42 単位以上			62 単位以上			12 単位以下		